

幕下は西富士らが全勝

幕下で3連勝としたのは西の富士、花吹雪、磯自慢の4力士。東二枚目の西の富士が桐壺の虎影と吳翔龍を共に押し倒して破り勝ち越しを決め十両昇進に一歩近づいた。これで西の富士が昇進すれば春日根部屋6人目の関取誕生となりそう。



虎影●(押し倒し)○西富士

幕下2場所目で4強に残った英吹雪。香具山勢との連戦で二日目には山下には左から寄り切りとうまい相撲を見せた。英部屋では英袋が孤軍奮闘しているが英袋に続く関取として今後期待が高まっている。きそうな感じだ。兄弟子の英風もうかうかしていられないところ。四日目は西の富士との対戦が組まれそうだが、この一番に勝つようなら優勝も現実味を帯びてくるかもしれない。四日目が楽しみ。



英吹雪○(寄り切り)●山下



花形●(押し倒し)○英吹雪



吳翔龍●(押し倒し)○西富士

春日根再生術で復活した蛭国。鹿乃砲と元十両の磯燕を圧倒して新幕下でいきなりの3連勝は大したものだ。以前はやや非力な感じだったが、最近では安定感が出てきている。現任は富士浪部屋所属だが半分は春日根部屋と言っても過言ではなさそう。



蛭国○(寄り切り)●鉄ノ里



磯燕●(押し倒し)○蛭国

三日月は西旭との一番。先場所の三段目では対戦はなかったが、実力的には西旭と思われたが、しかし大方の予想を覆し磯自慢に軍配が上がった。相撲では西旭が上回ったが何とか競り勝った。四日目磯自慢と蛭国の対戦も注目となる。(勝間田)

三日目は西旭との一番。先場所の三段目では対戦はなかったが、実力的には西旭と思われたが、しかし大方の予想を覆し磯自慢に軍配が上がった。相撲では西旭が上回ったが何とか競り勝った。四日目磯自慢と蛭国の対戦も注目となる。(勝間田)

三段目、序の口

三段目での3連勝は虎麒麟、東灘、島内、龍神丸の4力士。なかでも桐壺部屋の虎麒麟、東灘は共に四枚目で、あと一つ白星を重ねれば幕下昇進の可能性が濃厚だ。その桐壺勢を島内、龍神丸が破り千秋楽を迎えるのかはまたまた同部屋の虎麒麟



虎麒麟○(押し倒し)●鶴ノ里



西旭●(引き落し)○磯自慢

序二段の3連勝は、桃薩摩、櫻塚、土岐美空の3力士。中でも櫻塚は若手が活躍している九十九部屋にあってなかなか勝ちあがれない苦闘先場所三段目では全敗して序二段に降格したが、二日にV字回復した。また、付出で初土俵を踏んだ佐戸若部屋の翔影島と秋田部屋の難波山は明暗を分けた。



難波山○(寄り切り)●彩乃島



翔影島●(寄り切り)○土岐美



自力岳●(寄り切り)○櫻塚

序の口は3連勝で育成会の残留を決めたのは、富岳、松山、紅ノ花の3力士。なかでも富岳は友砂親方がお気に入り、四股名の様で、過去に期待されながら十両目前で怪我により大成しなかった「富嶽」から命名されたことかからその期待度がうかがえる。しかし顔立ちが横綱蛭勇に瓜二つの声援が起きている。



富岳○(寄り切り)●千曲海

今場所の注目は何といっても佐戸若部屋と秋田部屋の復興だ。秋田部屋の難波山と千曲海は新弟子ながら南部相撲で鍛えた足腰で2勝1敗と好成績を残した。とりわけ千曲海は初日に鹿賀乃戸部屋の新弟子を圧勝し、そのポテンシャルの高さに注目だ。一方、佐戸若部屋の翔影島と涙海は勝ち星なし。来場所の捲土重来に期待したい。(香具山十)

古今東西

紙相撲豆知識 57 名門再興

今場所、オールドファンにとっては懐かしい二部屋から各々2力士が初土俵を踏んだ。一つは秋月佐戸若連合の看板部屋ながら長らく空き株となっていた佐戸若部屋。今次新弟子を受け入れるにあたって朝日松一門の後押しで煙立親方(黒船)が名跡変更し、佐戸若部屋を立ち上げた。所属力士は平成16年から106回、幕下15枚目懐石を最後に番付から消えており、それ以来の力士となる。

- 初代 花ノ川(第三横綱) 第9回より22回
- 主な弟子 子の川(前1)、花の川(大関)
- 二代 子の川(佐戸若部屋) 第23より44回
- 主な弟子 綾ノ花(関脇)、宝永山(小結)
- 三代 花の川(佐戸若部屋) 第45より69回
- 主な弟子 旭灘(前4)
- 四代 旭灘(佐戸若部屋) 第70より142回
- 主な弟子 黒船(関脇) 友砂部屋 第149回より152回
- 友砂部屋付き煙立

- 初代 春山(京都相撲出身) 第4より16回
- 主な弟子 難波瀧(前8)、難波江(前6)
- 二代 難波瀧(秋田部屋) 第17回より50回
- 主な弟子 甲山(前1)、水瀬川(前3)、太郎瀧(前2)
- 三代 強羅岩(前3住之江部屋) 第67回より72回
- 住之江部屋付き
- 四代 尾結(小結) 輝勢岩部屋 第99回より
- 輝勢岩部屋付き

なお、協会関係者の話によると、現秋田親方は今年一杯で定年退職のため、後継は一門で東北所縁の勝間田部屋付き親方の誰かが継承するのではないかとのことだ。